

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ エンジェルハイロウ		ワークス	FHチルドレンB	カヴァー	高校生
	オプショナル	年齢		15	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	恐怖		初期侵食率	40 %
出自	安定した家庭	経験	死と再生	邂逅	欲望：知識の探究	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	2		0			2	行動値	16
感覚	4	1	0	1		6	(非装備時)	16
精神	2		0			2	戦闘移動	21
社会	0		1			1	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	9		RC	1		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	3		調達	4	
運転：			芸術：			知識：レネゲイド	1		情報：FH	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：裏社会	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：軍事	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
レッドテンバスト	射撃	6r+9	0	22		メインプロセス終了時、HPを1D点失う。他武器装備不可、同エンゲージ攻撃不可
キーンナイフ	射撃	6r+9	1	5		装甲値-5（最低0）でダメージを算出

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品
エンブレム：玩具使い
エンブレム：スイーパー
エンブレム：トラッパー
ウェポンケース：レッドテンバスト
ウェポンケース：キーンナイフ
情報収集チーム
思い出の一品
エンブレム：捨て駒

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	タス	消費
破壊の子	P	N			
固定：天宮善壱	P	執着	N	敵愾心	
固定：家族	P	親近感	N	疎外感	
シナリオ：ツアラトウストラ	P	連帯感	N	劣等感	
	P		N		
	P		N		
	P		N		

最大財産P: 10 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
①コンセ：エンジェルハイロウ	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	C値-LV（下限値7）							
雷の残滓	4	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	命中で邪毒付与。ランクはエフェクトレベルと同じ値							
③小さな塵	5	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	攻撃力+[LV*2]							
④見えざる死神	4	2+2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	隠密時、組み合わせた判定ダイス+1個、その攻撃の攻撃力+[LV*3]							
⑤バリアクラッカー	3	4	メジャー	武器	-	対決	80%	
効果：	エフェクトを組み合わせた攻撃に対してガード不可。カバーリングした場合もガードしたものとしてダメージを算出できない。装甲無視 シナリオLV回							
⑥無貌の亡霊	1	4	メジャー	視界	シーン[選択]	対決	120%/恐怖	
効果：	トループのみ対象にできる。射撃攻撃を行う。命中した場合、対象を戦闘不能とする。このエフェクトを組み合わせた攻撃で、対象にHPダメージを与えられない							
陽炎の衣	3	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	隠密状態となる、メインプロセス終了まで継続。敵とエンゲージしていても隠密状態になれる シーンLV回まで							
デスストーカー	5	-	常時	至近	自身	自動	リミット	
効果：	隠密状態で行う攻撃の攻撃力+[LV*4]							
ライトカスタム	3	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：	「HP+5」「行動値+2」「[肉体】【感覚】の判定ダイス+1個」選択							
光の衣	2	4	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	メインプロセス間、自身が行うメジャーアクションに対するリアクションのC値+1 シナリオLV回							
天使の外套	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	光を操り、自らの姿の上に別の外見を上書きするエフェクト。任意の外見を持つことができる。ただし外見のみで声は変わらない。変装を見破ろうとした場合、<知覚>同士による対決を行う。							
猟犬の鼻	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果：	嗅覚と視覚を直し、にのびのびと匂いや顔色、ウィルス、粉じんなどを見分けられる。どんなに細かい粒子でも電子顕微鏡の精度で見ることができ、更に一度でも診たにおいや粒子を覚えておくことができる。							
タッピング&オンエア	★	1	メジャー	視界	効果参照	自動	-	
効果：	無線電波を傍受したり、逆に電波を放送して画像や音声などの情報を送受信するエフェクト。ケーブルに触れて有線で情報を送受信することもできる。必要なら<知覚>で判定							

なんの変哲もない家庭の生まれだった。
父は役所で働く公務員で、母は少しだけ教育熱心な主婦。
立派な父親に憧れを抱き、お節介な母親からたまに逃げ出したい。他人と比べれば多少は恵まれている家庭に生まれたと思う。
そんな平穏は12歳の時に崩れ去った。
通っている塾から帰った日、玄関で「ただいま」と言っても何も返事がなかった。聞こえるのはテレビの音だけで、それ以外は物音も話し声も何もなかった。
何故か冷や汗が流れた。いつもと違った気がした。リビングに近づくとなんだか錆臭い。
ドアを開けると、家族は血を流して死んでいた。見たこともないような化物に襲われて。
何が起きたか分からなくて、逃げ出そうと思っても恐怖に足がすくんで動かなかった。化物は俺も殺そうと襲いかかってきた。
死にたくない……死ぬのは怖い。
そう思った時、俺の中に得体の知れない力が溢れてくるのを感じた。指先に電流が走る。
この力があれば、アイツを倒せるかもしれない。
そう思ったけれど、使い方もわからないし戦い方だって知る訳もない俺がいきなりできるはずがなかった。漫画やアニメの主人公とは違うんだから。
化物が目前に迫った時、死ぬと思った。實際死にかけたし。
けど俺は死ななかった。化物は倒れ伏していた。目の前にいるのは知らない男の人だったけど、その人が助けてくれたんだと理解した。
俺にとっては、ピンチに駆けつけてくれたヒーローのようで。神様のよう。胸がドキドキして、素直に格好いいと思った。
彼が差し伸べてくれた手を、取らない理由なんてなかった。
その人が言うことはきっとみな正しいし、疑う理由なんてなかった。だって身を挺して俺を助けてくれた人が間違ってるはずなんてない。
だから俺は今こうして銃を手に取って、正しい道のために邪魔な人を殺して、あの人の理想を実現させるために何でもする。

